



研究テーマ

- 1 宮崎県全域をフィールドとした周産期予後に関するpopulation-based 研究
- 2 周産期予後改善のための病態解明と治療戦略の開発
- 3 多職種連携を強化した周産期・新生児医療の発展

研究概要

産婦人科の一分野である周産期医療は、お母さんの妊娠中から出産、生まれた赤ちゃん(新生児)という一貫した流れの中で、母体と胎児・新生児の治療を担っています。周産期死亡率はこの20~30年間で大きく改善してきました。救命率は高まりましたが、様々な合併症を乗り越えて、退院後の生活を送るお子さんもおられます。

私たちは、宮崎県全体のデータを収集してそのような周産期・新生児疾患の病態解明および新たな治療法の開発を目的に研究を行なっています。

児玉 由紀

こだま ゆき
医学部
医学科

発達泌尿生殖医学講座産
婦人科学分野

教授

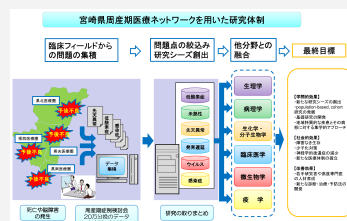
キーワード

Population-based study,
周産期医療、周産期死亡、
死産、脳性麻痺、子宮内感
染、胎児低酸素症、脳室内
出血、脳室周囲白質軟化症

特許情報・
共同研究・
応用分野など

1 宮崎県全域をフィールドとした周産期予後に関するpopulation-based 研究

宮崎県内の地域周産期センター(2次周産期センター)と総合周産期母子医療センター(大学病院)で管理した、周産期死亡例や予後不良例を登録し、背景となる因子や原因などを調査・討議しています。予後不良例の大きな原因としては、低酸素虚血、感染症、胎児発育不全、未熟性などが挙げられています。各因子をさらに詳細に検討して、治療戦略を解明していきます。



2 周産期予後改善のための病態解明と治療戦略の開発

① 子宮内感染症の周産期管理

子宮内感染症はその原因となる病原体によっても、予後が大きく異なります。また、細菌感染症の原因となる前期破水や切迫早産の場合に、母体への抗菌薬をどのようにするか、まだ明らかな結論は出ていません。近年薬剤耐性菌の出現も懸念されています。臨床データから解析し、今後の治療方針へつなげたいと思います。

② 脳室周囲白質軟化症の病態解明

早産児脳障害の大きな原因の1つである脳室周囲白質軟化症は、動脈支配領域の境界部に起こる虚血が原因とされていますが、その背景となる疾患には様々なものがあります。データをもとに解析を進めて、病態解明や新たな治療を探索していきます。

3 多職種連携を強化した周産期・新生児医療の発展

胎児心拍数モニタリング研修などを通じて助産師と密に連携し、徹底した妊娠分娩管理を行っています。また、新生児医療では、NICU/GCU担当の看護スタッフや院内の担当部署スタッフと共同で感染予防対策、呼吸管理など最善の医療を探求しています。

ホームページ

宮崎大学医学部産婦人科
<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/obgyn/>

技術相談に応じられる関連分野

産婦人科、周産期、新生児医療

メッセージ

日本一、世界一、安全にお産できる県を目指しています。
画像処理技術を活用した新生児の体重測定、黄疸や自発運動解析などでの共同研究を希望します。